

金利過払い…国保払えず

診療ためらい死せ

消費者金融などへの返済で国民健康保険料を支払えなくなり、保険証を取り上げられる「無保険者」が増えている。医療費が全額自己負担になるため病院に行かず、重病になったり、死亡した人もいる。利息制限法(15%20%)を超えるグレイゾーン金利で返済を続け過払いになっている場合が多く、弁護士らは「消費者金融からもっと過払い金を取り戻せば、保険料を納められる人は増える」と指摘している。

【多重債務取材班】

縦並び社会 広がる多重債務

建設会社に勤めていたや子供の学費を払うた愛知県一宮市の男性(58)は、借りては返したが、87年、仕事上の付き合いで99年に保険料を払えなくて大手消費者金融からなり、持病の糖尿病の治療を始めた。会社が倒産し、コンビニエンスストアの経営を始めたが赤字が続いた。住宅ローンの運転手をしながら返済

「生活苦で余裕ない」

を続けたが、一昨年、右折信号の矢印が見えなくなった。1年後には失明寸前になる。やむを得ず病院に行くと「糖尿病が悪化が原因」と診断された。生活保護を受け、手術で失明は免れた。



「早く受診できていれば」と悔やむ男性。つえを傍りに置き、プロ野球中継の音だけを聞く愛知県一宮市で

しかったから、金利が高かいか考える余裕もなかった」と言う。 男性の債務整理を担当する滝康暢弁護士は、この3年間で16人の過払い金を消費者金融から取り返した。「利息制限法の金利なら保険料を滞納していなかった人がほとんど」という。一宮市では国民健康保険料の未納が05年度末で1万5758世帯と4世帯に1世帯に上る。3年以上の滞納金は20億2000万円だ、

弁護士は「うち7割は過払い金を取り戻せば支払える」と試算する。 島根県益田市では昨年12月、自営業者の67歳の男性が持病の高血圧や頭痛を抱えながら診療をためらい、くも膜下出血で死亡した。家族が弁護士に相談し、約1500万円が過払いになっていたことが判明。長男40は「生前に過払いと分かっていたら」と悔やむ。

毎日新聞の調べによると、国民健康保険料の長期滞納を理由に、医療費の全額自己負担を求められる「無保険者」は04年度に全国で30万世帯を超えている。

情報をお寄せください
 ファクス 03-3212-0635
 Eメール t.shakaibu@mbx.mainichi.co.jp
 〒100-8051 (住所不要)
 毎日新聞社会部
 多重債務取材班